

東南アジア (ASEAN)



1 農・畜産業の概況

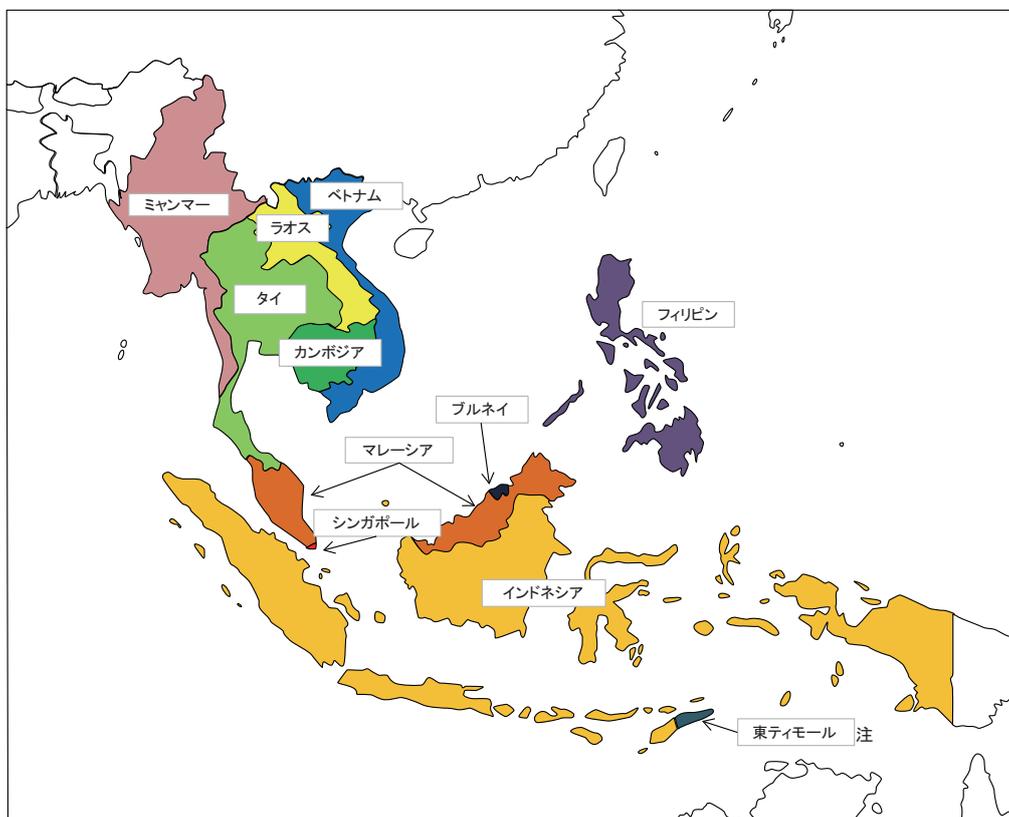
アジア開発銀行によると、ASEAN（東南アジア諸国連合）加盟 10 カ国（図 1）のうち、シンガポールとブルネイは、GDP（実質国民総生産）に占める農業の割合が 1%以下と低い一方、近年、経済成長の著しいマレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの 5 カ国は、11～20%となっている。これら 5 カ国では、都市と農村の経済格差が顕著になっている中で、農村は失業者の緩衝機能を果たしているといわれている。また、米（コメ）などの主要作物の価格が政策的に低く抑えられているため、農業分野の算出額が増加しないという特徴も有している。上記以外の残り 3 カ国は、カンボジアが 36.7%、ラオスが 28.9%、ミャンマー

が 32.5%と高くなっている。これらの 3 カ国は、政情不安が長引いたことなどから農業以外の産業の発展が遅れており、相対的に農業の比重が高い。しかし、政情の安定化に伴う経済の発展により、その割合は低下してきている。

国別の農業の特徴として、マレーシアは、油ヤシ、ゴムなど永年性作物の栽培が多く、一方、フィリピンは、トウモロコシ、米などの食用作物が中心となっている。

畜産業については、食習慣、宗教、農業の形態などを反映して、各国ごとに畜種の重要度が異なっているため、生産量に大きな差がある。

図 1 ASEAN加盟国



資料：機構作成

注：東ティモールはASEAN非加盟国。

ASEAN諸国の主要穀物および畜産物生産量を見ると、多くを占めるのが穀物であり、中でも米が多い。また、主要な畜産物は、豚肉および鶏肉で、宗教上の理由

から豚肉を消費しないイスラム教徒の人口が多いインドネシアやマレーシアなどでは鶏肉が多く、宗教上の制約のないベトナムやフィリピンでは豚肉が多い（表1）。

表1 ASEANの主要穀物および畜産物生産量（シンガポール、ブルネイを除く）

（単位：千トン）

国	年	米	トウモロコシ	牛肉	豚肉	鶏肉	鳥卵	生乳
マレーシア	2007	2,375	32	27	200	931	488	60
	2008	2,353	33	26	195	1,163	490	66
	2009	2,511	36	30	206	1,058	524	71
	2010	2,465	48	32	234	1,140	601	76
	2011	2,576	60	30	231	1,174	635	80
タイ	2007	32,099	3,890	265	915	1,107	869	729
	2008	31,651	4,249	300	864	1,158	882	786
	2009	32,116	4,884	211	871	1,154	970	841
	2010	34,409	5,124	223	895	1,220	980	911
	2011	36,128	5,266	207	880	1,243	996	982
インドネシア	2007	57,157	13,288	381	597	1,296	1,382	924
	2008	60,251	16,324	432	637	1,350	1,324	1,023
	2009	64,399	18,070	444	649	1,404	1,308	1,278
	2010	66,469	18,786	472	695	1,540	1,382	1,313
	2011	65,757	18,084	521	721	1,665	1,284	1,379
フィリピン	2007	16,240	6,737	288	1,617	662	593	13
	2008	16,816	6,928	279	1,606	741	423	8
	2009	16,266	7,034	288	1,629	827	408	14
	2010	15,772	6,377	300	1,636	869	424	16
	2011	16,684	6,971	301	1,642	920	441	16
ベトナム	2007	35,943	4,303	316	2,663	359	223	267
	2008	38,730	4,531	333	2,783	448	247	294
	2009	38,950	4,372	369	3,036	529	273	311
	2010	40,006	4,607	384	3,036	457	321	339
	2011	42,398	4,836	387	3,099	494	345	377
ラオス	2007	2,710	688	42	46	16	14	7
	2008	2,927	1,108	45	54	17	15	8
	2009	3,145	1,134	44	55	18	15	7
	2010	3,071	1,021	45	59	20	15	7
	2011	3,066	1,096	46	57	20	16	8
カンボジア	2007	6,727	523	71	120	18	21	23
	2008	7,175	612	73	110	19	21	24
	2009	7,586	924	75	115	23	20	24
	2010	8,245	773	73	105	20	22	24
	2011	8,779	717	73	110	19	22	23
ミャンマー	2007	31,451	1,128	159	411	726	247	1,215
	2008	32,573	1,185	171	463	798	282	1,309
	2009	32,682	1,245	178	535	923	353	1,482
	2010	32,580	1,376	234	585	1,016	381	1,620
	2011	29,010	1,485	254	619	1,079	412	1,684

資料：FAOSTAT

注1：牛肉は水牛肉を、鳥卵は鶏卵以外の鳥の卵を、生乳は水牛、めん羊・ヤギの乳を含む。

2：トウモロコシは青刈トウモロコシを含む。

3：過去にさかのぼって数値が変更される場合がある。

2 東南アジア諸国の畜産の動向

(1) 酪農・乳業

ASEAN諸国では、牛乳・乳製品は、一般的な食材ではなく、また、気候条件が酪農にあまり適していないことや、良質な飼料の自給が困難なこともあり、酪農・乳業は欧米諸国に比べて盛んではなかった。また、流通やインフラの関係から、消費される乳製品は、主に全粉乳などの粉乳類か、缶入り加糖れん乳であった。しかし、近年は冷蔵施設の普及や経済発展に伴い、特に都市部およびその周辺では飲用乳製品の需要も高まりつつある。

各国とも、脆弱（ぜいじゃく）な酪農生産基盤により牛乳・乳製品の自給にはほど遠い現状にあるが、生乳生産、工場インフラ、地理的条件などを総合的に考慮すると、将来的には、輸入乳製品からの還元乳の製造を含め、タイやベトナムは、インドシナ半島の牛乳・乳製品供給基地になり得るとみられている。また、2億を超える人口を有し、近年、経済発展を遂げているインドネシアについても、乳製品需要の伸びが期待されており、ベトナムなどとともに、外資系企業の参入も積極的に行われている。

一方で、ASEAN各国では、乳製品の定義や各国統計上の取り扱いがあいまいであることから、乳製品需給動向の正確な把握は困難となっている。

①生乳生産動向

2011年の乳用牛の飼養頭数は、乳製品需要の高まりを背景に5カ国とも増加している（表2）。

インドネシアの2011年の乳用牛飼養頭数は、前年比22.3%増の59万7000頭であった。乳用牛の大部分がジャカルタなど大消費地に隣接するジャワ島の冷涼な気候の山岳地域で飼養されている。繁殖牛の遺伝的能力が低く、零細な経営が多くを占めているという課題もあり、インドネシア政府は、乳用牛増頭計画を掲げ、豪州から初妊牛を輸入している。

マレーシアの2011年の乳用牛飼養頭数（サバ、サラワク州を含まず。以下同じ）は3万4700頭（前年比0.9%増）であった。乳用牛の大半が半島部で飼養されている。飼養頭数が多いのは、シンガポールに国境を

接するジョホール州、首都クアラルンプール近郊のスランゴール州、北西部のペラク州などである。また、乳用牛は、ホルスタインとインド系在来乳牛の交雑種が過半を占め、それ以外はインド原産種となっている。2011年の生乳生産量は、7万1000トン（前年比6%増）となっている。歴史的に天然ゴムや油ヤシのプランテーションとしての土地利用が多く、反すう家畜のための飼料基盤整備が課題となっている。

フィリピンの2011年の乳用牛飼養頭数は、わずかに1万7400頭（前年比3%増）となっており、そのほか、水牛が乳用として飼養されている。2011年の生乳生産量は1万6000トン（前年同）となり、うち約6割が牛由来、残りの4割は水牛乳とヤギ乳とみられている。なお、生乳換算による自給率は1%程度となっている。

タイの2011年の乳用牛飼養頭数は、約56万700頭（前年比5.9%増）であった。1999年から2005年までの飼養頭数は増加傾向で推移していたが、2006年は原油高などによる生産コストの上昇に伴い酪農家戸数が減少し、飼養頭数は大きく減少した。2008年後半に入り原油価格や飼料価格などのコスト低下を受け、その後飼養頭数は、回復基調にある。

ベトナムの2011年の乳用牛飼養頭数は、14万2700頭（前年比11%増）であった。乳用牛の約5割は、乳製品の主要消費地となるホーチミン近郊で飼養されている。乳用牛は、フランス植民地時代に導入されたライシン種（ゼブー種）に、近年、ホルスタイン種を交配し、生乳生産量の増加に取り組んでいる。同年の生乳生産量は38万2000トン（同24.4%増）となっている。

表2 乳用牛飼養頭数と生乳生産動向（2011年）

（単位：千頭、千トン）

国名	飼養頭数	前年比 (増減率)	生乳生産量	前年比 (増減率)
インドネシア	597.0	22.3%	975	7.1%
マレーシア	34.7	0.9%	71	6.0%
フィリピン	17.4	3.0%	16	0.0%
タイ	560.7	5.9%	982	7.8%
ベトナム	142.7	11.0%	382	24.4%

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注1：マレーシアの飼養頭数は半島部のみでサバ、サラワク州を含まない。

2：フィリピンの生乳生産量は水牛乳およびヤギ乳を含む。

②牛乳・乳製品の需給動向

ASEAN諸国では、牛乳・乳製品の国内消費量に占める輸入量（生乳換算）の割合は一般的に高く、半分以上を占めている（表3）。乳製品輸入は粉乳が主であり、小分けして販売されるほか、消費量の多いLL牛乳や缶入り加糖れん乳なども、輸入全粉乳や脱脂粉乳から還元製造される割合が高い。

インドネシアの2011年の牛乳・乳製品の1人当たり年間消費量は、6.5キログラム（前年比25%増）となり、経済発展に伴い全体的な乳製品需要は増加しつつある。

マレーシアの2011年の牛乳・乳製品の1人当たり年間消費量は、22.8キログラム（同33.7%減）と大幅に減少しているが、ASEAN諸国最大となっている。2011年同国の牛乳・乳製品の輸出量は約70万トンと国内生産量の約10倍となっているが、ニュージーランドや豪州から輸入した粉乳の乳成分を原料として、国内で調製品や食品に加工して再輸出しているためである。フィリピンの2011年の牛乳・乳製品の1人当たり年間消費量は、1.2キログラム（前年比8%減）となった。牛乳・乳製品のほぼ全量がニュージーランド、米国、豪州からの輸入品および輸入品を原料とした加工品となっており、生鮮牛乳の飲用習慣はほとんどない。

タイの2011年の牛乳・乳製品の1人当たりの消費量は、15.7キログラム（前年比8%増）となった。デンマーク政府の協力により設立されたタイ酪農振興機構や外資系企業による牛乳・乳製品の生産の拡大、学乳制度の導入などにより乳製品の消費量は増加傾向で推移している。なお、2011年の牛乳・乳製品の輸出量は約12万6000トンとなっている。これは、豪州から輸入した脱脂粉乳を原料として、還元乳やれん乳などへ再加工の上、周辺国などに再輸出しているためである。

表3 牛乳・乳製品の需給動向（2011年）

（単位：千トン、kg）

国名	生産量	輸入量	消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア	975	520	1,403	92	6.5
マレーシア	71	1,168	538	700	22.8
フィリピン	16	1,400	1,116	300	1.2
タイ	982	266	1,122	126	15.7
ベトナム	382	220	593	9	6.4

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注1：消費量は、「生産量+輸入量-輸出量」で算出。

2：フィリピンは水牛およびヤギ由来の乳を含む。

3：マレーシアは半島部のみでサバ、サラワク州を含まない。

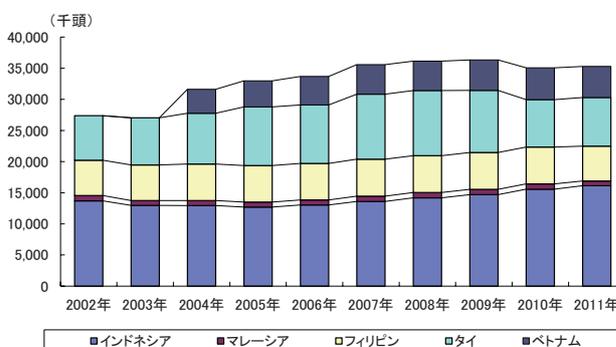
(2) 肉牛・牛肉産業

ASEAN諸国では、農作業の機械化により役用としての水牛の飼養頭数の減少が進む一方、肉用牛の飼養頭数が増加している（図2、表4）。

牛肉需要を見ると、食習慣や経済状況の差が大きく、国ごとに1人当たり消費量に大きな差がある。また、1人当たり消費量は各国とも横ばいで推移している（図3、表5）。

牛肉の消費が伸びない要因は、牛肉が豚肉・鶏肉に比べて高価であること、宗教上、役用である牛を食さないことなどの理由が挙げられる。

図2 肉牛・水牛飼養頭数の推移



資料：各国政府統計

注：2002、2003年のベトナム飼養頭数は未公表のためデータなし

表4 牛飼養頭数と牛肉生産量（2011年）

（単位：千頭、千トン）

	飼養頭数		牛肉生産量 (水牛を含む)	前年比 (増減率)
	肉牛	水牛		
インドネシア	14,824	1,305	521	10.4%
マレーシア	691	71	49	4.3%
フィリピン	2,518	3,075	301	0.3%
タイ	6,583	1,234	207	13.1%
ベトナム	2,269	2,712	375	0.0%

資料：各国政府統計

注1：マレーシアの肉牛の飼養頭数は半島部のみでサバ、サラワク州を含まない。

2：マレーシアの肉牛の飼養頭数は乳用牛を含む。

①牛の生産動向

インドネシアの2011年の肉用牛飼養頭数は、1482万4000頭（前年比9%増）と増加傾向で推移した。地域別では、首都ジャカルタのあるジャワ島が飼養頭数全体の約4割を占めている。また、豪州などから肥育もと牛を輸入して3カ月程度肥育するフィードロット産業が盛んである。一方、水牛の飼養頭数は農作業の機械化により減少しており、131万頭（同34.7%減）となっている。

マレーシアの2011年の肉用牛飼養頭数は、頭数が把握できる半島部で、69万1000頭（前年比9%減）であり、飼養頭数の割合は、肉牛が9割を占め、水牛が1割である。水牛は役に供される機会の減少に伴い頭数も減少している。

フィリピンの2011年の肉用牛飼養頭数は、251万8000頭（前年比3%減）、水牛飼養頭数は307万5000頭（同7%減）となっている。豪州などから肥育もと牛を輸入する商業的なフィードロット経営も見られるが、肉用牛・水牛ともに飼養頭数が20頭未満の小規模経営が全体の9割以上を占めている。このため、同国政府は農村部での零細経営の収入確保などを目的とした新技術の普及促進、専門家の育成などの畜産振興策を打ち出している。

タイの肉用牛飼養頭数は、政府の肉牛振興政策などにより2001年からは微増傾向で推移し、2011年は658万3000頭（前年比2%増）となった。また、役用として供されている水牛の飼養頭数も農業の機械化が進み減少傾向となっているが、2011年は123万4000頭（同4%増）と増加している。タイでは、ミャンマーから生体牛を輸入し、国内で肥育した後、それをラオスやマレーシアに生体で輸出している。

ベトナムの2011年の肉用牛飼養頭数は、226万9000頭（前年比3%増）と増加している。ベトナムは、生体牛をタイ、ラオス、カンボジアなどの近隣諸国や豪州から輸入して肥育を行っている。

②牛肉の需給動向

2011年の牛肉生産量は、インドネシアが52万1000トン（前年比11.2%増）、マレーシアは4万9000トン（同5.0%増）、フィリピンは30万1000トン（同0.8%増）、タイは20万7000トン（同8.8%増）、ベトナムは37万5000トン（前年並）となった。

インドネシアの2011年の牛肉（水牛肉を含む）の1人当たり年間消費量は、2.5キログラムとなっている。牛肉の消費は、民族・宗教によって慣習が異なることなどから、地域で異なり、ジャカルタなど一部地域に集中している。

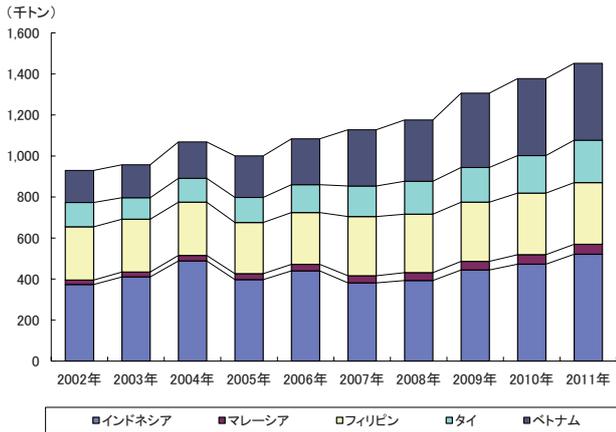
マレーシアの2011年の牛肉（水牛肉を含む）の1人当たり年間消費量は、6.8キログラム（前年比9.6%増）となっている。牛肉消費量に占める輸入品の割合は約8割となっている。主な輸入先はインド、豪州である。

フィリピンの2011年の牛肉（水牛肉を含む）の1人当たり年間消費量は、4.4キログラム（前年比4%減）であった。牛肉自給率は、7割程度であり、主な輸入先国は、インド、ブラジル、豪州などである。このうちインドからの安価な水牛肉はコンビーフに加工されて、食されている。

タイの2011年の牛肉（水牛肉を含む）の1人当たり年間消費量は、2.6キログラム（前年比16%減）であった。牛肉輸入量は、2万4000トンであり、消費量に占める割合は1割程度となっている。

ベトナムの2011年の牛肉（水牛肉を含む）の1人当たり年間消費量は、7.2キログラム（前年比33%増）であった。牛肉自給率は、6割程度であり、主な輸入先国は、豪州、ニュージーランド、インド、米国などである。

図3 牛肉・水牛肉生産量の推移（2011年）



資料：各国政府統計、FAOSTAT

表5 牛肉の需給動向

(単位：千トン、kg)

国名	生産量	輸入量	消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア	521	83	601	3	2.5
マレーシア	49	149	188	10	6.8
フィリピン	301	116	415	2	4.4
タイ	207	24	163	69	2.6
ベトナム	375	258	633	0	7.2

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注1：水牛肉を含む。

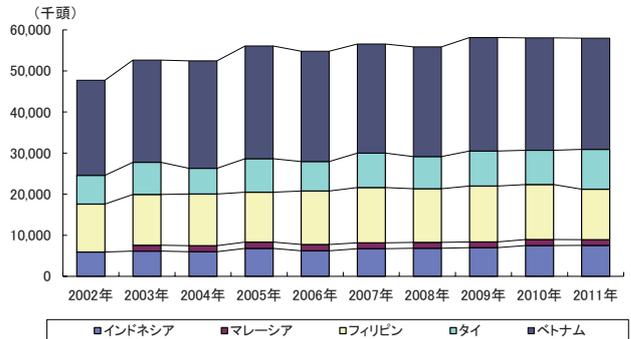
2：インドネシアおよびタイの消費量は、「生産量+輸入量-輸出量」で算出。

3：マレーシアは半島部のみでサバ、サラワク州含まない。

(3) 養豚・豚肉産業

ASEAN諸国では、インドネシアをはじめ宗教上の理由から豚肉を食さないイスラム教徒の人口が多いが、国によって豚肉の消費量には大きな格差があり、国の政策上の位置付けもさまざまである。他方、イスラム教徒が多数を占める国でも、中国系住民などの豚肉需要はあり、飼養規模、地域などの規制はあるものの、養豚業は行われている（図4）。

図4 豚飼養頭数の推移



資料：各国政府統計

①豚の生産動向

ASEAN諸国では、口蹄疫や豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）などの家畜疾病が継続して発生していることもあり、家畜衛生対策が喫緊の課題である。

インドネシアの豚飼養頭数は2007年以降増加傾向で推移し、2011年は752万5000頭（前年比1%増）となった（表6）。

表6 豚飼養頭数と豚肉生産量（2011年）

(単位：千頭、千トン)

国名	飼養頭数	生産量	前年比(増減率)
インドネシア	7,525	225	6.1%
マレーシア	1,396	214	▲8.4%
フィリピン	12,303	1,642	0.4%
タイ	9,682	880	▲1.8%
ベトナム	27,056	3,099	2.4%

資料：各国政府統計、FAOSTAT

マレーシアの2011年の豚飼養頭数は、139万6000頭（前年比5%減）とわずかである。

フィリピンは宗教的な制約が少ないこともあり、豚の飼養頭数が多いが、2008年の1370万頭をピークに、近年は、減少傾向で推移しており、2011年は1230万3000頭（同8%減）となった。

タイの豚飼養頭数は、価格や疾病などの影響により増減を繰り返して推移しており、2011年は968万2000頭（前年比16%増）となった。

ベトナムは、アジアでは中国に次いで豚飼養頭数が多い。近年、2009年の2769万頭をピークに減少傾向で推移しており、2011年は2705万6000頭（前年比1%減）となっている。

②豚肉の需給動向

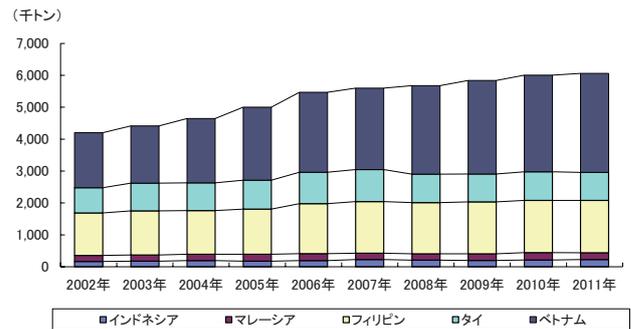
2011年の豚肉生産量は、インドネシアが22万5000トン（前年比6.1%増）、マレーシアは21万4000トン（同8.4%減）、フィリピンは164万2000トン（同0.4%増）、タイは88万トン（同1.8%減）、ベトナムは309万9000トン（同2.4%増）となった（図5）。

2011年の豚肉消費量は、インドネシアが22万6000トン（同4%増）、マレーシアは23万トン（同8%減）、フィリピンは173万トン（前年同）、タイは86万3000トン（同2%減）、ベトナムは309万3000トンとなった（表7）。

ASEAN諸国の豚肉消費動向は、宗教の影響を強く受けており、2011年の1人当たり豚肉消費量は、イスラム教徒が人口の大半を占めるインドネシアが3.0キログラムであったのに対し、タイで13.0キログラム、ベトナムでは34.4キログラム、また、食肉に関する宗教的制約の少ないフィリピンでは、18.2キログラムとなっており、国による差が大きくなっている。

一方、マレーシアでは、イスラム教を国教と位置付けているものの、伝統的に豚肉を好む中国系住民（非ムスリム）などが人口の4割程度占めていることから、2011年の1人当たり豚肉消費量は8.6キログラムとなっており、非ムスリムに限ると同21.6キログラムである。

図5 豚肉生産量の推移（2011年）



資料：各国政府統計、FAOSTAT

表7 豚肉の需給動向（2011年）

国名	生産量	輸入量	消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア	225	1	226	0	3.0
マレーシア	214	21	230	6	8.6 * (21.6)
フィリピン	1,642	92	1,730	3	18.2
タイ	880	1	863	17	13.0
ベトナム	3,099	1	3,093	7	34.4

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注1：水牛肉を含む。

2：インドネシアおよびタイの国内消費量は、「国内生産量+輸入量-輸出量」で算出。

3：マレーシアは半島部のみでサバ、サラワク州含まない。

4：マレーシアの（）内は非ムスリムのデータ。

（4）養鶏・鶏肉産業

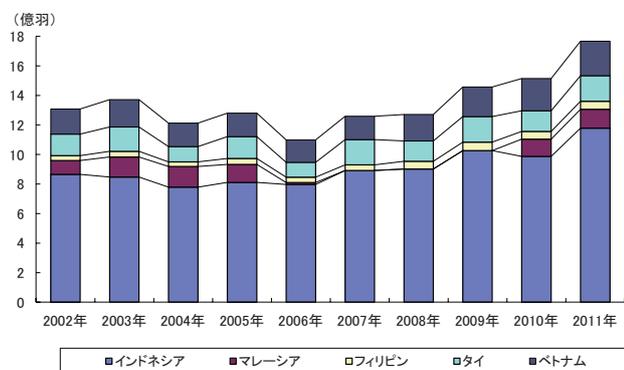
①鶏の生産動向

ASEAN諸国では、宗教上の制約がないことから、ブロイラーや採卵鶏の飼養が盛んであり、在来鶏を中心に、アヒルなどの家きんも飼養されている（図6、表8）。インドネシアは、ASEAN諸国で鶏の飼養羽数が最多である。ブロイラーの飼養頭羽数は、南スラウェシ州などでの鳥インフルエンザ発生の影響を受け、2010年は9億9000万羽まで減少したが、2011年は前年比19%増の11億7800万羽まで回復し、鶏肉生産量は同10.2%増の133万4000トンとなった。2011年の採卵鶏の飼養羽数は同18%増の約1億2500万羽、鶏卵の生産は同8.7%増の103万トンとなった。

マレーシアのブロイラー飼養羽数は、2005年の鳥インフルエンザの発生により減少がみられたものの、徐々に回復し、2011年には1億2800万羽となった。また、鶏肉生産量は133万400トン(同2.9%増)となった。鶏卵の生産量は62万1000トン(同5.3%増)となった。フィリピンの2011年のブロイラー飼養羽数は、約5500万羽(前年比5%増)、鶏肉生産量は92万トン(同5.9%増)となった。採卵鶏の飼養羽数は約3140万羽(同9.7%増)、生産量は40万3000トン(同4.2%増)となった。

タイは、鳥インフルエンザが発生した2004年以降、EUや日本向けの生鮮鶏肉の輸出が停止している。このため、飼養羽数は鶏肉調製品の輸出量に左右されていたが、ブロイラーの飼養羽数は2011年が1億7316万羽(同24%増)と大幅に増加している。採卵鶏についても2004年以降大きな増減を繰り返していたが、2011年が4940万羽(同18%増)と増加している。また、2011年の生産量は、鶏肉が136万2000トン(同5.1%増)、鶏卵が58万1000トン(同2.7%増)となった。

図6 ブロイラー飼養羽数の推移



資料：各国政府統計

注：2007～2009年のマレーシアは、データが公表されていない。

表8 鶏の飼養羽数と鶏肉・鶏卵の生産量(2011年)

(単位：千羽、千トン)

国名	飼養羽数		生産量			
	ブロイラー	採卵鶏	ブロイラー肉	前年比(増減率)	鶏卵	前年比(増減率)
インドネシア	1,177,991	124,636	1,338	10.2%	1,028	8.7%
マレーシア	127,985	na	1,334	2.9%	621	5.3%
フィリピン	54,750	31,440	920	5.9%	403	4.2%
タイ	173,155	49,403	1,362	5.1%	581	2.7%
ベトナム		232,734	696	13.0%	400	7.4%

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注：鶏卵は1個58グラムで換算。

②鶏肉の需給動向

前述の通り鶏肉消費に関しては宗教上の制約がなく、ASEAN諸国では最も身近で重要な動物タンパク源となっており、各国とも生産と消費が伸びている。需要の増加を背景に、外資による食鳥処理場の整備や大手ファーストフードの参入などが増加している(図7、表9)。

インドネシアの鶏肉の生産量133万8000トン、1人当たり年間鶏肉消費量は7キログラムとなっているが、飼養羽数に比較して小さな値となっており、コールドチェーンが未発達であることなどにより、食鳥処理場以外で処理したり生きたまま販売したりするケースが多数を占め、統計上全体の生産量が把握できないためと考えられる。

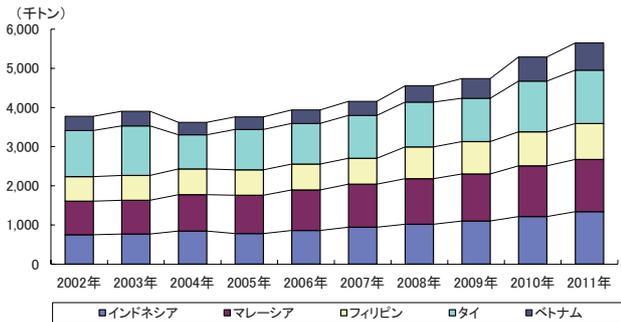
マレーシアの1人当たり年間鶏肉消費量は、49.4キログラムとなった。なお、隣国インドネシアの鶏肉消費が伸びるとしてマレーシア資本の鶏肉加工業者は、輸出向けの投資を加速させている。

フィリピンの1人当たり年間鶏肉消費量は、11.1キログラムとなった。台風被害の少ないミンダナオ地域では、食鳥処理場の処理能力が拡大されるなどにより、鶏肉調製品の輸出量が増えてきている。

タイの1人当たり年間鶏肉消費量は、12.2キログラムとなった。2004年1月以降、鶏肉の主要輸出先国が、鳥インフルエンザ発生により同国からの家きんなどの輸入一時停止措置を実施したため、輸出は、冷凍鶏肉から鶏肉調製品に移行している。

ベトナムの1人当たり年間鶏肉消費量は、15.6キログラムとなった。同国の生産部門に対しては、人口増加による鶏肉消費の拡大を見越した外資の参入が見込まれている。

図7 プロイラー生産量の推移



資料：各国政府統計、FAOSTAT

表9 プロイラーの需給動向 (2011年)

(単位：千トン、kg)

国名	生産量	輸入量	消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア	1,338	1	1,339	0	7.0
マレーシア	1,334	41	1,353	22	49.4
フィリピン	920	119	1,028	11	11.1
タイ	1,362	2	868	496	12.2
ベトナム	696	802	1,498	0	15.6

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注1：消費量は、「生産量+輸入量-輸出量」で算出。
 注2：マレーシアは半島部のみでサバ、サラワク州含まずない。

③鶏卵の需給動向

ASEAN諸国は、鶏卵を粉卵や液卵に加工する施設がほとんどないため、市場動向に応じて価格が乱高下しやすい傾向がある。また、価格の変動に伴って生産量を調整する需給安定システムが十分に機能していないことから、頻繁に供給過剰の問題を抱えることとなる。

1人当たり鶏卵消費量は、インドネシアが4.2キログラム、マレーシアが19.7キログラム、フィリピンが3.9キログラム、タイが11.8キログラム、ベトナムが3.8キログラムと、国によって大きな開きがある(表10)。

表10 鶏卵の需給動向 (2011年)

(単位：千トン、kg)

国名	生産量	輸入量	消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア	1,028	5	1,033	0	4.2
マレーシア	621	0	484	138	19.7
フィリピン	403	3	407	0	3.9
タイ	581	2	575	9	11.8
ベトナム	400	0	398	2	3.6

資料：各国政府統計、FAOSTAT

注1：鶏卵は1個58グラムで換算。
 注2：マレーシアは半島部のみでサバ、サラワク州含まずない。